

優しい願いを込めた公園づくり

行き交う人の笑顔を引き出す場所に



犬鳴川河畔の散策を楽しむ人たちの声をまとめ、
「犬鳴川河川公園」整備へと導いた市民ボランティア団体「犬鳴川みどりの会」。
会長の来島仁左エ門鴻司さんは、公園の維持・管理を通じて
まちの魅力を未来に繋げるため、行政とともに日々奔走しています。

宮若市の中心部を流れる、まちの顔ともいえる犬鳴川。河川敷に広がる犬鳴川河川公園は、行政と一緒に市民の声を活かして形にした憩いの場です。この場所を約30年間、欠かさずに維持・管理をしてきたのが「犬鳴川みどりの会」(以下、みどりの会)です。

会長を務める来島さんは、幼い頃に宮若市へ。豊かな自然がまちの魅力と話すように、幼い頃から植物が好きで、農業高校にも通っていたそうです。「今でも全国各地の山で植物調査に参加しています。知識があったこともあって、『公園をつくるから立ち上げと一緒に参加してくれんか』と声を掛けられ、気が付けばこんなにも長く活動を続けています」。

現在会員数は約80人。月1回の公園整備に加え、当番制で毎日管理作業に取り組んでいます。「活動の中心は、花植えや草抜き、東屋の清掃など地道な作業。自然相手ですので、大変です。でも『自分たちのまちは自分たちでつくる』を合言葉に始まった活動なので、汚れていたら恥ずかしいですし、花がしおれているようでは、誇れるまちにはなれないですから。会員一人ひとりができることを少しずつ。そうやって地域みんなでの風景を守っていきたいです」。

かつて寂しい風景だった河川敷は、今では桜や彼岸花の名所として市外からも多くの人足を運ぶ場所になりました。みどりの会の活動の輪も少しずつ広がり、地元企業や高校生も積極

The Inunakigawa Midori Association, a citizens' volunteer group, summed up the views of those who enjoyed walking along the banks of the River Inunaki and led the way to the development of the Inunakigawa Kasen Park. The chairman, Nizaemonkoji Kijima, works hard every day with local authorities to ensure the city's charm is preserved for the future through the park's upkeep and management.



①会員と一緒に地域住民や地元企業、高校生も花植えに参加
②9月下旬には河川敷が28万球の彼岸花で真っ赤に染まる
③④1年間の活動を労う芋煮会では、地域の人にも芋煮を振る舞う

的に協力してくれるようになりました。それでも、「来てよかったとみんなが思える場所にするには、もう少し考えなくちゃいけない」と、張り切る来島さん。

「いつ来ても季節の花が咲く場所にしたいと、少しずつ手を加えているところなんです。桜並木のように目立つものじゃなくても、ふと目を向けた先に花があると笑顔になるし、たとえ小さくても一年中花の咲く公園があるまちになれば素敵じゃないですか」。優しく思いを語る言葉の節々から感じられるのは、植物への愛、そして地元愛。公園を歩き交う人たちの日常に小さな幸せを届けるため、今日も自然豊かな美しい公園を目指して、汗を流しています。

市民の力でまちを元気に！ 地域を支える 市民活動

Pick up.1

公園の維持管理などを行う団体



犬鳴川みどりの会

犬鳴川河川公園の除草作業や季節の花などを植えています。春の桜ウィーク、秋のヒガンバナまつり、芋煮会などのイベントも企画。

2000年公園みどりの会

イベント企画や、公園内に植栽する花の選定のほか、公園内にある貸し農園の利用者に農具を貸し出すなど、公園の維持・管理を幅広く行っています。



Pick up.2

読み聞かせなどを行う団体



山口読書会

「子どもたちに絵本の楽しさを伝えたい」と地域のお母さんが集まって発足。図書館でのおはなし会や高齢者向けのパネルシアターなどを行っています。

親子読書会「くまの子文庫」

「子どもが喜んでくれるイベントを」との思いから、読みかせだけでなく七夕飾り作りやぬり絵大会なども開催。本の貸し出しも行っています。



Pick up.3

地域活動を支援する団体



サロンすこやかグループ

高齢者へ配布するお弁当づくりを行っています。味付けや調理のコツを教え合いながら、季節にちなんだ料理などを作っています。